

# ティーチング・ポートフォリオ



**井手将文**

**(佐賀大学 高等教育開発センター)**

**第3回佐賀大学ティーチングポートフォリオワークショップ  
愛媛県松山市 道後温泉にて**

**2010/09/24**

# 目次

<b>1. 教育の責任</b> .....	<b>1</b>
<b>2. 教育の理念</b> .....	<b>2</b>
<b>3. 教育の方法</b> .....	<b>3</b>
<b>4. 授業の評価と改善</b> .....	<b>5</b>
<b>5. 短期／長期の教育目標</b> .....	<b>6</b>
<b>6. 添付資料</b> .....	<b>7</b>
添付資料A：障害者就労支援コーディネーター養成プログラムの概要 （平成22年度版養成プログラム履修の手引きより） .....	8
添付資料B：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」シラバス （平成22年度版養成プログラム履修の手引きより） .....	13
添付資料C：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」レポート 例（平成22年度版） .....	14
添付資料D：発話障害を伴う重度四肢まひ者とのコミュニケーション用透明 文字盤（平成22年度版） .....	15
添付資料E：市販テレビゲームの障害者用インタフェースを体験する風景 （平成22年度版） .....	16
添付資料F：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」 アンケート用紙、集計結果（平成22年度版） .....	17
添付資料G：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」他者 レポート例公開に対するコメント一覧（平成22年度版） .....	19
添付資料H：伊万里看護学校看護科「老年看護学概論」 アンケート用紙、集計結果（平成22年度版） .....	20

## 1. 教育の責任

私は1980年から福岡県下の医療リハビリテーション機関で、重度障がい者の機器操作特性研究などを行っていたが、1996年社会人学生として九州工業大学大学院で学位を取得、1997年から2003年までの6年間徳島大学大学院で福祉工学分野の教員となった。その後は佐賀県内で独居高齢者や障がい者の生活支援の仕事をしていたが、2009年12月、佐賀大学特別教育研究プロジェクト「障がい者の就労支援に関する高等教育カリキュラムの開発—障がい者就労支援コーディネーター養成—」の実施に伴い、特任教員として任用された。

本プロジェクトは2010年4月より3カ年で、8科目のカリキュラムを開講予定であり(添付資料A：障害者就労支援コーディネーター養成プログラムの概要(障害者就労支援コーディネーター養成プログラム履修の手引き平成22年度版より))、カリキュラムの開発と一部講義を担当している。

本資料には、養成プログラムが「障がいを持たれた方の働く意欲や動機づけを高め、職場での就労支援はもとより、さらなるキャリアアップやQOL(生活の質)の向上を支援する『障がい者就労支援コーディネーター』を養成すること」を目的とし、

- 1) 雇用・医療・福祉などの社会資源の活用に関する知識・スキル
- 2) カウンセリングの基本知識・スキル
- 3) 使いやすい機器や環境に関する知識・スキル
- 4) 生活・就労に関する問題解決能力

の修得を目指したカリキュラム構成を行っている。

10月より「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」「高齢者や障がい者への生活・就労支援概論」が開講され、前者では主担当、後者では一部を担当する。いずれも対象学生は全学部にあたる学生であり、どの学部生であれ、障がいに対する基本的な考え方を理解させ、社会生活をおくる中での障がい者に関わる有用なスキルと、様々な生活様式や考え方を意識できる柔軟性の獲得を目指す。このような能力は障害者関連の企業や施設で発揮されるばかりでなく、一般の就労現場や地域での日常生活の中で、障害者の就労や生活支援が必要な場面に直面した時にも、主導できる能力となる。

佐賀大学第二期中期目標では、「2. 学生の成長と未来を支える教育」において、「教育先導大学として佐賀大学独自の教養教育システムを創出し、際立つ個性と豊かな知性・感性を身に付け、現代社会の動向を的確に捉えてリーダーシップを発揮するプロフェSSIONALを育成する」としており、全国の大学に先駆けて実施されたこの障がい者就労支援コーディネーター養成プロジェクトの達成は、佐賀大学の教育理念とも合致するものである。

この他に大学院医学科専攻にて「生活支援特論」、看護学科にて「生活行動支援論」、医学科にて「生活と支援技術」を一部担当しており、以下に、担当科目一覧を示す。

平成22年度 井手將文の担当科目

科目名	学科 学年／種別	担当	受講者数
テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論	主題科目(全学科) 1年／選択* <sup>1</sup>	主担当	70
高齢者や障がい者への生活・就労支援概論	主題科目(全学科) 1年／選択* <sup>1</sup>	一部担当	190
生活と支援技術	医学科 1年／必修	一部担当	100
生活行動支援論	看護学科 3年／選択	一部担当	70
生活支援特論	大学院(医科学専攻)／選択	一部担当	10

\*1: 障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム受講者は必修

## 2. 教育の理念

リハビリテーションという人間支援の現場から、大学という教育・研究の現場に移籍してきた。その中で一貫していることは、障害のあるなしに関わらず、皆が等しく社会参加できるような社会にしていきたいということである。医療や地域支援の現場では、その個人に対して最適な解は何かということを探求してきており、教育の現場では、リハビリテーションに直接的に関わる医学・教育学系の学生に対しては、障害者を支援するためのスキルや効果的な支援をするためのニーズの捉え方を教授したり、他分野の学生に対しては、社会全体のボトムアップの意味も含め人間理解という視点で教授している。

リハビリテーションの現場においては、障がいを持つ方自身の様々な行動が、彼ら自身の気づきの引き金となり、それが発展して更なる気づきや自覚が伴うことで強固なモチベーションとなり、自分自身のリハビリテーションを推し進めることがある。リハビリテーションの現場において一番意識したことは、各人にモチベーションを如何にして持ってもらう(持たせ)、その方自身の今後の活動にどう具体的に結び付けられるかということであった。

教育・研究の現場においても、学生に対して同様の意識を持ってアプローチを行っている。講義の中に様々な行動を伴うアクティビティを包含しながら、毎週のレポートでコミュニケーションを重ね、学生に「気づき」を与える材料を提供し続けることが、重要と考えている。

もう一点、多様性に対する理解を深めることも重要である。大学の中では、職業的、医学的など幾つかの分野に分けられるリハビリテーションを題材として教育に当たるが、同様の障がいであっても、その方の生活歴、家庭環境、モチベーションの取り方などで求め

るニーズは全く異なり、その後の社会復帰の状況は千差万別である。全く同じ状態に心身機能が回復したとしても、ニーズが異なれば本人の評価が異なるのは当然である。このことを理解した上で全体の向上を図るか、個々のニーズの充足を目指すかは、その関わる立場でも異なるが、常に両方の見方があることを意識させたい。

また、私の講義の中では、障がい者・高齢者の生活の中での様々な体験を通して、その意味や本質を理解したり、影響や効果について理解していく内容のものが多い。勿論、医学、工学、社会学、心理学など、各人の基盤となる学問分野の知識は必要であるが、それらに加えて「他者に対する興味」を持てる学生は多方面で力を発揮できると考える。中期目標の言葉を借りれば、「他者に対する興味」は知性・感性として位置づけられるものであり、私の講義は、知性・感性に刺激を与えるアプローチと言えるかもしれない。

### 3. 教育の方法

「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」は、2010年10月に開講しており、そのシラバスを添付資料Bとして添付する。この講義では講義のねらいとして、5つの項目を挙げている。

即ち、①講義を楽しむ、②自分の考えを表現するスキルを身につける、③障がいに関する知識の獲得、④障がい当事者の考え方を理解する、⑤体験により理解を深めるであり、頭で理解するというより、一緒に体を動かしたり声を出して感じた中で、その背景を理解していくという手法である。

「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」では、障害者の生活を知るために映像資料を多く使うが、その都度社会背景や対象者の生活状況、心理などを補足しながら、なぜその生活を選択しているのかを解説する。また、実際のテクニカルエイド利用者にも教室にゲストとして登場いただき、その状況を肌で感じとってもらう。これらの体験は、多様性の理解にはきわめて有用である。更に、使用するテクニカルエイドなどについては、できるだけ実物を準備し、障がい者の経験を共有できるようにしている。単なる知識や情報として障害者・高齢者の状況を知るのではなく、触り動かすことにより相手を思い、自分がその状況にあればどのように感じどのように行動するだろうかと、一歩深く掘り下げることを意識させたい。映像資料や操作体験などではミニレポートを課し、自分の感じたことをできるだけ表現させる。これらの行動が小さな気づきとなり、それがモチベーションに発展し自覚が伴うことで、自分たちと変わらない様々な障がい者の生活に気付くことができる。

「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」では、この他にも「気付き」のための工夫が幾つかある。

この講義では、毎回グループ別に座る位置を移動（一列目のみ自由席とし、それ以外はグループ別に着席位置を4パターン作り巡回）させている。これは、後部席を定位置とす

る消極的な受講生を作らないという消極的なねらいもあるが、それよりは比較的シャイな学生諸君に、かぶりつきで講義を楽しむ機会を提供したいという気持である。前席では積極的な気持ちで講義に臨みやすくなるし、色々な席を体験すると講義を受ける雰囲気の違いに気付いたり、いつもそのあたりにいる学生の気持ちを考えたりなど、新たな自己発見に結びつくと考えている。席位置の移動に関しては、後述の4. 授業評価と改善の中で学生からの評価結果を示している。

また、この講義では、毎回 A4 用紙 1 枚のレポートを課しているが、レポートについてはリラックスして自分の考えを表出しやすくするため、また、相手(提出先)に理解してもらい易くするためのスキルとして、図解による説明も推奨している。一定の割合で図解を基盤としたレポートがある。時間的な制限もあり、講義時間内での意見交換には限度があり、レポートにはなるべくコメントを乗せて返却し、連携を図っている。

(添付資料C:「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」レポート例 参照)

また、特徴的なレポートについては、翌週の返却時に全学生にコピーを配布し、自分との表現の違いや着眼点の違いなどに意識を持たせている。

(添付資料G:「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」アンケート結果  
他者のレポートの公開に関するコメント一覧 参照)

看護学科「生活行動支援論」および医学科「生活と支援技術」では、様々な方式の文字盤を使って重度障害者(模擬)とのコミュニケーションの演習を行うが、意識の集中が持続するように設問毎に各班完了時に即時に順位を告知する。このことにより、自分達が勝手に文字盤コミュニケーションの練習をするのではなく、講師の監視下で如何に効率よく確実に伝えるかを繰り返し練習し体得することになる。

また、情報を出す側の発話障害を伴う重度四肢まひ者の疑似体験ともなるわけで、意図した言葉が伝わるまでのもどかしさや伝わることの嬉しさなど、当事者の心情にも意識を及ぼすことができる。

(添付資料D:発話障害を伴う重度四肢まひ者とのコミュニケーション演習用文字盤)

医学科「生活と支援技術」では、四肢麻痺者用で顎と息で操作するテレビゲームや、四肢麻痺者用テレビゲームと同じ操作方法でパソコンを操作するインタフェースを準備し、10名程度(1割)の学生にゲームやパソコンの体験操作をさせ、残りは観客として参加し、多数のコミュニケーションの場としてのゲームの位置づけや、ゲーム操作がコンピュータ操作と直接結び付くものとして体感させている。

全学科対象の主題科目「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」でも同様の講義を、インストラクターとして重度障害者を招き、実演指導を受けながら全員が操作を体験している。

(添付資料E:市販テレビゲームの障害者用インタフェースを体験する講義風景)

## 4. 授業の評価と改善

2009年度までの佐賀大学での講義は、1, 2コマの非常勤講師という状況であったので、学生による授業評価は受けていない。2010年度後期に初めて主担当の講義「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」を行った。これに関しては、大学でのWebでのアンケート評価と講義終了時に教員独自で行ったアンケート評価、および、講義の中間点(第8回目の講義)で行った席配置に関するアンケートを実施した。

添付資料Fとして「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」のアンケート用紙と集計結果を示す。前述の講義のねらいに沿った評価で、①講義を楽しむでは、5段階評点で4.3、②自分の考えを表現するスキルを身につけるで3.8、③障がいに関する知識の獲得で4.1、④障がい当事者の考え方を理解するで4.0、⑤体験により理解を深めるで4.3を示し、②の表現スキル獲得を除けば、良好の結果となった。また、この他に他者のレポート例公開に対する評価を行ったが、理解が深まったとする評点は4.2と良好であった。添付資料Gに他者のレポート例公開に対する感想一覧を示す。68名中51名がコメントしたが、前向きなコメントが大半であり、他者のレポートとを見ることが良い効果を与えていることが伺えた。

佐賀大学以外にも、伊万里看護学校看護科では「老年看護学概論」5回9コマの講義をしており、5回の講義内容別に7段階評価と自由記述の授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえて翌年の講義の内容を改善している。添付資料Hとして伊万里看護学校「老年看護学概論」のアンケート用紙と集計結果を示す。総じて、講義中心のものよりも体を動かすことが多く興味深く感じたとの意見が多くみられた。また、自分の職場や家族などに照らし合わせたコメントも多く、やる側の意図が伝わった内容であった。

講義の中に実物を使ったアクティビティを組み込むことが多いが、これまでにいくつかの失敗例を経験している。伊万里看護学校での失敗例を2点提示しておきたい。

1点目は住環境に関する課題であった。老年看護学概論では開講して3年間は、その2コマで2人ひと組となって学内の学生トイレの図面化の演習を課題としていた。当初の目的は、対象となる方(患者様など)がトイレでのADL動作が出来ない場合に、手すりの位置や配置などに問題がないか調べたり、その状況を説明したりするための、病棟での自立支援のスキルの一つとしての、現状図を作るための図面起こしを経験するものであった。しかしながら、図面起こし作業が看護学生の学習範囲として捉えられないとの意見が、学生自身から複数出され、翌年からはその課題をやめ、住宅改修やトイレ設備に関する書籍や文献の中から、興味を持てる文献を選びその要約をレポートする内容と変更した。

もう1点は自助具に関する課題で、視覚障害を有する高齢者をイメージして、実際の料理(ガメ煮)を「すくいやすい食器」とスプーンを使って食べるというものであった。知識として「すくいやすい食器」の情報は提示できるが、視覚障害者がスプーンで材料の重さを感じることで掬えたことを認識し、目が見えなくても食器の縁をガイドとしてスプー

ンを角に寄せていくだけで、食材がスプーンに集まることを体験させることを意図したものであった。あまり説明が多いとネタばらしになると思い、「普通の食器」と「すくいやすい食器」の比較操作をさせたが、指名した学生が食べたくないと課題作業に同意せず、こちらのひとり相撲となった企画であった。事前説明で十分理解させ希望者を募るなどの準備が必要であった。翌年からは事前の予告をして実施することで、現在も続いている。

いずれも、課題の面白さを過信した上に事前説明の不十分さも加わり、こちらが学生の反応を見落として走りすぎたことが原因であった。課題の目的の理解が、モチベーションに大きくかかわることを自ら自覚した体験であった。

## 5. 短期／長期の教育目標

2012年度に、障がい者就労支援コーディネータ養成プログラムの修了生を、所定の規模で送り出すことが当面の短期的目標ではあるが、佐賀県地域での社会風土を改善し、多くの障害者が社会参加し易くなる地域にならなければ、優秀なコーディネータは育てられない。現在、佐賀県では、障害のあるなしに関わらず誰もが尊重される住みやすい社会の実現に向けて、ユニバーサルデザイン推進体制が取られている。

(HP: さがユニバーサルデザインラボ : ユニバーサルデザイン推進体制)

<http://www.saga-ud.jp/taisei/sisin.html>

「まちづくり」「ものづくり」「ソフトづくり」「意識づくり」の4つの柱が立てられているが、その中の「意識づくり」では、学校・職場・生涯学習における活動を明示している。高等教育での長期的教育目標と合致するかは明確ではないが、社会全体を対象とした教育活動が私の今後の教育目標となる。

様々な障害を持つ方々をインストラクターとして養成し、その方たちの指導を受けて行う「ユニバーサルデザインワークショップ」には、体験を伴うアクティビティの中に様々な「気付き」の要素が含まれており、大学生ばかりでなく、これからの社会を担う小中学生や高齢者大学の皆さんなど、広範な市民全般に対するの実施が求められる。

【様々なアクティビティ例】

- 1) 車いす上でのバランス動作、顎と呼吸気で行う市販テレビゲーム操作体験
- 2) 顎と足の入力でゲームを操作し、同じ装置でパソコンも操作できることを体験
- 3) 車いす使用者と一緒に楽しむ公園散策
- 4) 視覚情報を遮断して、五感からの感覚を楽しむ公園散策
- 5) 自動車への様々な移乗方法を見学し、障がい者用運転補助装置やパーキングパーミット制度を学ぶ

「障がい者就労支援コーディネータ養成」や「ユニバーサルデザインワークショップ」など、障害に理解のある地域人材育成による地域の底上げを車輪の一輪とすれば、もう片

輪は障がい者自身のポテンシャルアップという障がい人材の育成である。障がい当事者に対する「ユニバーサルデザイン学習会」を実施することで、自分の障がいのみならず他の障がいに対する知識を深め、柔軟な思考を可能とし、様々なプレゼン手法などのスキルを持たせる能力開発にも貢献したい。これらの実践が、障がいの有無にかかわらず住みやすい社会の醸成につながるものと信じる。

これらの両輪に携わることが私自身の長期的な目標となる。

## 6. 添付資料

添付資料A：障害者就労支援コーディネーター養成プログラムの概要 （平成22年度版養成プログラム履修の手引きより）	8
添付資料B：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」シラバス （平成22年度版養成プログラム履修の手引きより）	13
添付資料C：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」レポート 例（平成22年度版）	14
添付資料D：発話障害を伴う重度四肢まひ者とのコミュニケーション用透明 文字盤（平成22年度版）	15
添付資料E：市販テレビゲームの障害者用インタフェースを体験する風景 （平成22年度版）	16
添付資料F：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」 アンケート用紙、集計結果（平成22年度版）	17
添付資料G：「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」他者 レポート例公開に対するコメント一覧（平成22年度版）	19
添付資料H：伊万里看護学校看護科「老年看護学概論」 アンケート用紙、集計結果（平成22年度版）	20

## 「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」へようこそ

### 【プログラムの概要】

佐賀大学では、平成 22 年 4 月より「障がい者就労支援コーディネーター」(佐賀大学認定資格)の養成を目的とした「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」を開講します。

我が国のみならず、障がいを持たれた方で能力も意欲もあるのに、就労できない事例が多く見受けられます。中には、わずかな工夫や配慮でその人の能力が生かせるにもかかわらず、障がいに対する先入観や誤解によって能力発揮を阻害されているような印象を持つ事例もあります。統計からも障がいを持たれた方の雇用率を達成していない企業が多く存在し、今後も雇用率達成を求められる企業の範囲は拡大していくでしょう。

このような状況下で、障がいを持たれた方の就労支援を推進していくためには、障がいを持たれた方の就労をサポートするための専門的知識やスキルを持った人財の養成が必須であり、またそれは時代の要請でもあります。

このように現代社会において、障がいを持たれた方への就労支援の要望は高いものの、我が国の大学には、障がいを持たれた方に対しての就労支援を主テーマとする学部や学科はなく、この「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」は佐賀大学が全国に先駆けて行うものです。

このプログラムでは、佐賀大学でこれまで取り組んできた、生活支援教育の経験と知識を生かし、障がいを持たれた方の働く意欲や動機づけを高め、職場での就労支援はもとより、さらなるキャリアアップや QOL(生活の質)の向上を支援する「障がい者就労支援コーディネーター」を養成することを目的としています。

そこで、次代を担う学生の皆さんへ、障がいを持たれた方への就労支援の理念や効果を教授し、共生社会構築の原動力となる人財の育成を行います。

本プログラムを修了した皆さんは、他の学生と一味違う「障がい者就労支援」の知識・スキルを有することになります。就職の際には、この知識・スキルを活かし、障がいを持たれた方とともに自分自身のキャリアアップに繋がることが期待されます。

### 「障がい者就労支援コーディネーター」とは？

企業等において、障がいを持たれた方の新規採用に際しての受入体制の整備や雇用促進制度の活用、すでに就労している障がいを持たれた方の職業カウンセリングや身体状況に合わせた環境の改善などを行い、企業等における障がい者雇用の推進役を果たします。

### 【身に付けられる能力】

「障がい者就労支援コーディネーター」は、障がいを持たれた方と就労先の間であって、カウンセリング能力、コンサルティング能力、コーディネート能力を持ち、障がいを持たれた方の潜在能力の開発と人間的成長を目標において活動できる専門職者です。

より具体的には、障がいを持たれた方の障がい特性や日常生活方法についての理解を基にして、就労能力の発見と評価、就労先の業務との関係の分析と調整や就労意欲の向上を図り、就労後も一定期間支援していく機能を有する専門家として位置づけられます。

本プログラムでは、障がいを持たれた方の就労や生活支援に関する次のような知識・スキルを習得します。

- 雇用・医療・福祉などの社会資源の活用に関する知識・スキル
- カウンセリングの基本知識・スキル
- 使いやすい機器具や環境に関する知識・スキル
- 生活・就労に関する問題解決能力 など

さらに、障がいを持たれた方の実際の就労に関する講話や就労現場の見学・実習などを通して、障がいを持たれた方と交流する機会も多くあります。このような経験は、単に知識・スキルの習得にとどまらず、皆さんの人間的成長につながることを期待でき、就職活動や就職後に大いに役立つでしょう。また、留学生の方にとっては、日本で身に付けた、障がいを持たれた方への就労・生活支援の知識・スキルは、帰国後の活動にも応用可能で、また新しいヒントを与えてくれるかも知れません。

### 【活用分野】

本プログラムで習得した知識やスキルなどは、将来、皆さんのそれぞれ本来の専門分野において、様々な業種、職場環境で活用できると考えられます。

#### ● 公務員の例：

- 1) 行政（県庁・市役所など）：高齢者や障がいを持たれた方を取りまく様々な住民サービス部門など
- 2) 警察・消防：社会的弱者である高齢者・障がいを持たれた方の悪質商法や詐欺被害などの相談対応・防犯対策の普及など、災害など非常時の高齢者・障がいを持たれた方への適切な対応と非常時の地域協力体制の促進など
- 3) 教員：特別支援学校や普通校での障がいを持った生徒への就職・進路指導や受け入れる市民全般に対する社会教育など

#### ● 一般企業の例：

- 1) 総務・人事部門：障がいを持たれた方の採用や人事異動の際の職場の配置や就労環境の整備・調整など、同じ職場内での障がいを持たれた同僚のサポートなど
- 2) 製造・設計部門：障がいを持たれた方や高齢者向けの使いやすい製品の製造・開発、住みやすい住居や街づくりのデザインなど
- 3) 各種サービス業：障がいを持たれた高齢者の増加や障がいを持たれた方の高齢化にともなう個人的・社会的ニーズに応じた適切なサービスの提供、新たなサービスの開発・提案など

その他、具体的には次のような業種・職種での活用が考えられます。

**【主な活用業種・職種】**

＜文化教育学部＞

教員、公務員、福祉関係、一般企業、デザイン関係など

＜経済学部＞

製造業、販売業、サービス業、金融業、流通業、公務員、教員など

＜医学部＞

病院、医院、看護や介護に関わる分野、福祉関係、医療機器メーカーなど

＜農学部＞

食品製造業、食品管理業、製薬会社、JA、農林水産業、公務員、教員など

＜理工学部＞

電気電子機器メーカー、自動車製造業、情報産業、建設業、公務員、教員など

**【キャリアアップの対象となる障がい者の就労支援を支える機関と専門職の例】**

障がいを持たれた方の雇用・就労の支援には、下の表に示すように様々な機関があり、そこに所属する組織の人たちが関わっています。

就労支援に関わる機関はそれぞれ固有の目的や役割があり、また、様々な経歴や知識・スキルを持った専門家が配置されています。

**表. 障がい者の就労支援を担う多様な機関**

1. ハローワーク
2. 地域障害者職業センター
3. 障害者就業・生活支援センター
4. 障害者雇用支援センター
5. ジョブコーチ支援実施機関
6. 就労移行支援事業者
7. 発達障害者支援センター
8. 特別支援学校など

【参考文献】松為信雄：「特集：職業リハビリテーションにおける人材育成 国内の動向」職業リハビリテーション、第23巻、No.1、34-41、2009

本プログラムで取得する「障がい者就労支援コーディネーター」は、これらの機関やそこで働く専門家と障がいを持たれた方との間に立って、障がいを持たれた方の就労をサポートしていく役割を担います。

皆さんも「障がい者就労支援コーディネーター」をステップにして、「障がい者就労支援」専門家としてのさらなるキャリアアップを目指すことも可能です。

ただし、各職種によって、必要な資格や経験などが異なるため、本プログラムで取得した「障がい者就労支援コーディネーター」の認定資格が直接、これらの機関への就職や専門職につながるものではありません。

## 添付資料A : ( 4/5 )

### 【シラバス概要】

対象となる受講学生は全学部の学生です。所属学部の専門科目を履修しつつ、3年間で障がい者就労支援コーディネーター分野の科目を履修します。

教養教育主題科目（以下、主題科目）4科目（8単位）と障がい者就労支援コーディネーター教育科目（以下、障がい者就労支援教育科目）4科目（8単位）の合計8科目（16単位）をすべて履修し、単位を取得すると、卒業時に所属する学部専門の学位（学士）に加えて、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の修了証（佐賀大学認定資格）が交付されます。

主題科目4科目（8単位）は、そのまま主題科目第4分野（以下、主題第4分野）の単位として認定されますので、プログラムに参加しない学生の受講も可能です。

### ■教養教育主題科目■

主題科目4科目（8単位）が必修科目となります。この単位は、そのまま主題科目の単位として認定されます。分野はすべて第4分野になります。

形式	科目名	分野	学期	時限	担当
講義	高齢者や障がい者への生活・就労支援概論	主題第4分野	後期	水1	堀川 悦夫 他
講義	障がい者就労支援の諸理論	主題第4分野	前期	集中	堀川 悦夫 他
講義	各種支援におけるカウンセリングの基礎と応用	主題第4分野	前期	水2	堀川 悦夫 他
講義	テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論	主題第4分野	後期	水2	井手 将文 他

### ■障がい者就労支援コーディネーター教育科目■（平成23年度・平成24年度から開講）

障がい者就労支援コーディネーター教育科目として、以下の4科目（8単位）が必修科目となります。

平成23年度から「障がい特性と職業適性」と「就労支援実践と社会的諸制度」、平成24年度から「医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援」と「職業適応促進と事例研究」が開講予定です。

形式	科目名	分野	学期	時限	担当
講義	障がい特性と職業適性	障がい者就労支援教育科目	平成23年度開講予定		
講義	就労支援実践と社会的諸制度	障がい者就労支援教育科目	平成23年度開講予定		
講義	医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援	障がい者就労支援教育科目	平成24年度開講予定		
講義	職業適応促進と事例研究	障がい者就労支援教育科目	平成24年度開講予定		

### 【受講の流れ】

平成 22 年度にまず、主題科目 4 科目が開講されます。これらは、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」修了認定のためには必須ですので、必ず 4 科目とも履修して下さい。なお、修得した単位は、主題第 4 分野の卒業要件単位としても認定されます。

平成 23 年度に、障がい者就労支援教育科目 2 科目「障がい特性と職業適性」と「就労支援実践と社会的諸制度」が開講されます。もし、平成 22 年度に主題科目 4 科目で履修出来なかった科目があれば、この年度に必ず履修して下さい。

平成 24 年度に、障がい者就労支援教育科目 2 科目「医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援」と「職業適応促進と事例研究」が開講されます。もし平成 23 年度に障がい者就労支援教育科目 2 科目で履修出来なかった科目があれば、この年度に必ず履修して下さい。

8 科目をすべて履修し、16 単位を修得すると、卒業時に「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の修了証（佐賀大学認定資格）が交付されます。

なお、障がい者就労支援教育科目は、学科・課程によって一定の範囲で自由選択科目として卒業要件単位への算入が認められています（一部の学科を除く）。詳しくは、入学後に配布される「教養教育の履修の手引き」にある別表を参照して下さい。

#### <平成 22 年度開講>

##### ◆主題科目（4 科目 8 単位）

- 高齢者や障がい者への生活・就労支援概論（後期・水曜日・I 校時）
- 障がい者就労支援の諸理論（前期・集中講義）
- 各種支援におけるカウンセリングの基礎と応用（前期・水曜日・II 校時）
- テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論（後期・水曜日・II 校時）

#### <平成 23 年度開講予定>

##### ◆障がい者就労支援教育科目（2 科目 4 単位）

- 障がい特性と職業適性
  - 就労支援実践と社会的諸制度
- + 平成 22 年度に履修出来なかった主題科目の履修

#### <平成 24 年度開講予定>

##### ◆障がい者就労支援教育科目（2 科目 4 単位）

- 医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援
  - 職業適応促進と事例研究
- + 平成 23 年度に履修出来なかった障がい者就労支援教育科目の履修

#### <卒業時>

- 所属する学部専門の学位（学士）の授与
- 「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の修了証の授与

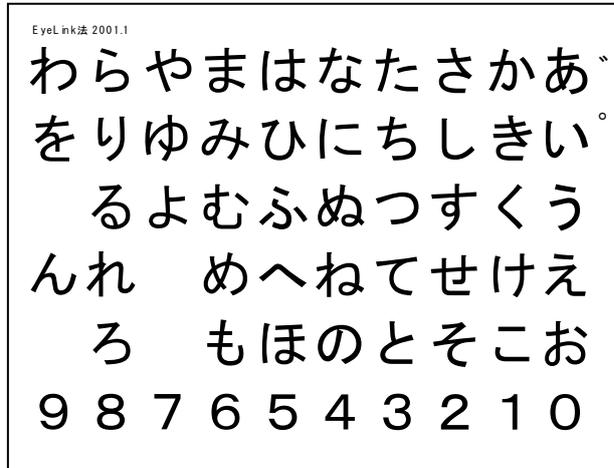
添付資料B : 「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」 シラバス

開講年度	平成 22 年度	開講時期	後学期
科目コード		分野	主題第 4 分野
科目名	テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論		
担当教員 (所属)	井手将文(高等教育開発センター), 福嶋利浩 (高等教育開発センター)		
単位数	2		
曜日・校時	水 2		
曜日・校時 追記			
講義概要 (開講意図・到達目標を含む)	この科目では、リハビリテーション工学の基本理論を概説し、生活行為別にテクニカルエイドを紹介する。特にコミュニケーションエイドについては、就労や知的生産活動などの社会参加活動に不可欠の要素であり、障害に応じた PC 適合手法について理解する。また、様々な障害者スポーツ・リクリエーションについて、それらの用具および競技法、支援法等を理解する。		
聴講指定			
履修上の注意			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション工学概論</li> <li>2. テクニカルエイド(1) ADL と様々な日常生活用具</li> <li>3. テクニカルエイド(2) 移乗・移動用具</li> <li>4. テクニカルエイド(3) 居宅の改善(外回り・玄関・居間・寝室)</li> <li>5. テクニカルエイド(4) 居宅の改善(台所・洗面所・浴室・トイレ)</li> <li>6. テクニカルエイド(5) 施設設備の改善</li> <li>7. コミュニケーションエイド(1) コミュニケーションの基本構造</li> <li>8. コミュニケーションエイド(2) 重度障害者のコミュニケーション</li> <li>9. コミュニケーションエイド(3) 感覚障害者のコミュニケーション</li> <li>10. PC の適合(1) Windows OS の障害対応とその設定法</li> <li>11. PC の適合(2) 障がい者向の入力端や補完ソフトウェア</li> <li>12. 自助具</li> <li>13. スポーツ・リクリエーション用具(1)</li> <li>14. スポーツ・リクリエーション用具(2)</li> </ol> 試験		
評価の方法と基準	講義中に指示するミニレポートや試験などから総合的に評価する		
教科書	講義において指示する		
参考図書			
リンク			
オフィスアワー			
その他	※本授業は、「障がい者就労支援コーディネータ養成プログラム」の必修科目である。平成 22 年度入学生から適用される。		

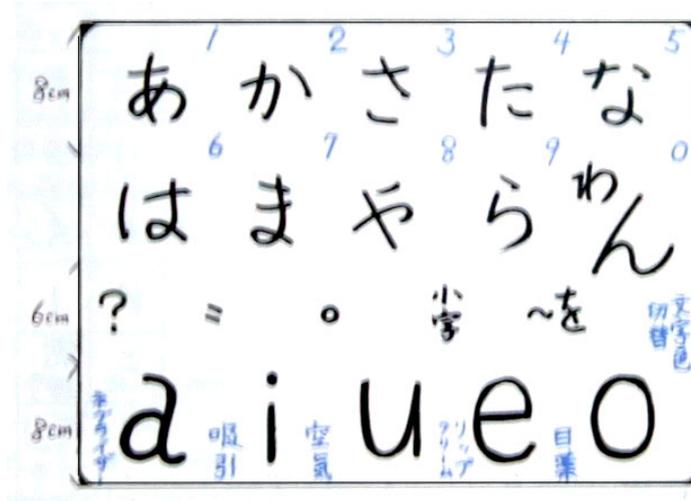


添付資料D : 発話障害を伴う重度四肢まひ者とのコミュニケーション演習用透明文字盤

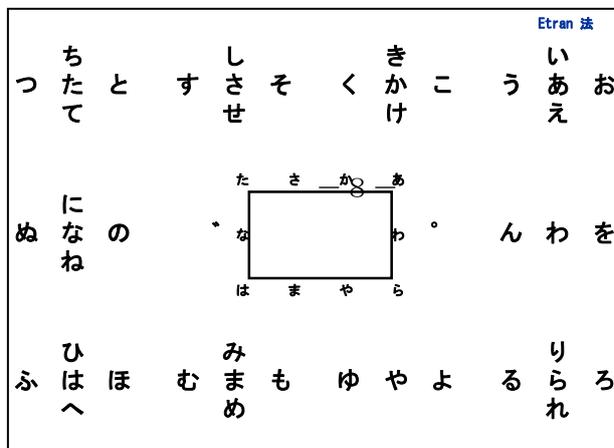
1) 行列走査法および EyeLink 法により使用する文字盤



2) 2段階 EyeLink 法による文字盤



3) Etran 法による文字盤



## 添付資料 E : 市販テレビゲームの障害者用インタフェースを体験する風景

- 1) 車いす上でのバランス動作で操作する WiiFit 2) 車いすの駆動動作で WiiFit の  
ジョギングゲームを操作する  
(左の車いす者はインストラクタ)



- 3) 車いすの駆動動作でのバランスで操作する  
WiiFit (右の車いす者はインストラクタ)



- 4) 顎で操作するプレイステーションと顎で操作する Windows パソコン  
(手前の車いす者はインストラクタ)



## 添付資料 F-1 : 「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」アンケート用紙

H22年度 テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論アンケート 2011,2,2

本科目「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」の、講義のねらいに沿って、各自の評価および意見を記せ。

1. 講義を楽しむことはできたか (非常に楽しめた、楽しめた、どちらでもない、悪い、非常に悪い)
  - ・ 配布物は適切だったか (非常に適切、適切、どちらでもない、不適切、非常に不適切)
  - ・ ビデオの放映は適切だったか (非常に適切、適切、どちらでもない、不適切、非常に不適切)

印象に残るビデオまたは配布資料があればそれを記し、その理由を述べよ

- ・ 携帯電話を使ったり他科目レポートを書くなど、自分に不適切な受講態度はなかったか (全くない、少ない、時々、多い、非常に多い)
- ・ 他学生を受講の妨げと感じたことはなかったか (全くない、少ない、時々、多い、非常に多い)

2. 表現するスキルは身に付いたか (非常に付いた、付いた、どちらでもない、付かない、全く付かない)
  - ・ 自分の考えをきちんと表現できたか (非常にできた、できた、どちらでもない、できない、全くできない)
  - ・ イラストや図表を活用できたか (非常にできた、できた、どちらでもない、できない、全くできない)

3. 知識の獲得はできたか (非常に付いた、付いた、どちらでもない、付かない、全く付かない)
  - ・ 講義以外で資料を見たり検索したりしたか (非常に多い、多い、時々、少ない、全くない)

4. 障がい当事者の考えを理解できたか (非常にできた、できた、どちらでもない、できない、全くできない)
  - ・ 障がい当事者の行動や発言に共感したことがあったか (非常に多い、多い、時々、少ない、全くない)

5. 体験をすることで理解が深まったか (非常にできた、できた、どちらでもない、できない、全くできない)
  - ・ 体験の内容は適切だったか (非常に適切、適切、どちらでもない、不適切、非常に不適切)

印象に残る体験があればそれを記し、その理由を述べよ

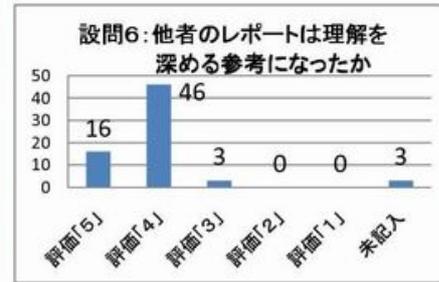
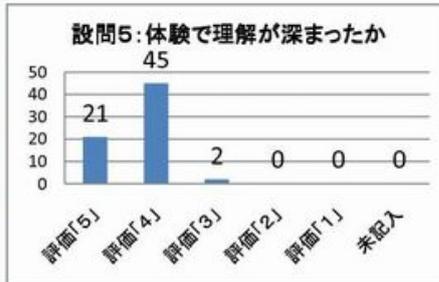
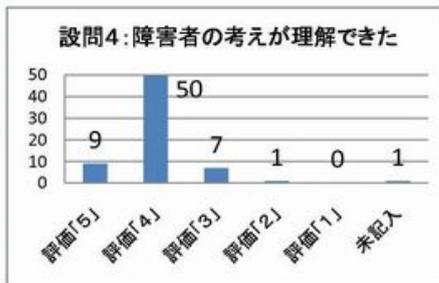
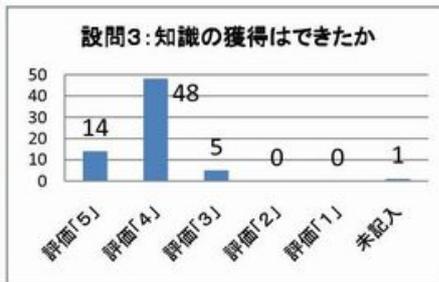
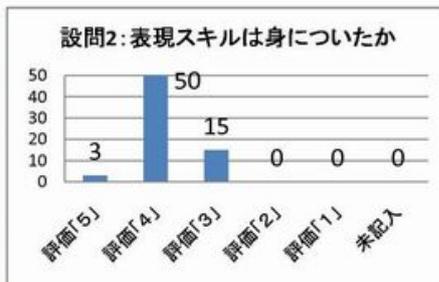
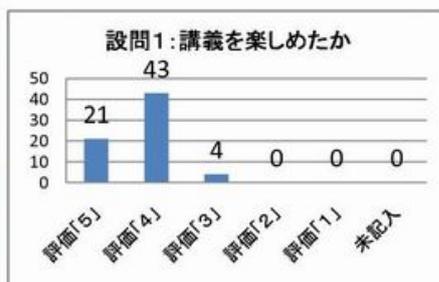
レポートの返却は、教官側からは理解の確認や相互の意見交換、学生側からは他者の考えや発想・着眼点、表現手法の違いなどを理解していく上で有効であるが、各自の評価および意見を記せ。

1. 他者のレポートコピーは読んだか (全部読んだ、多くを読んだ、時々、あまり読んでない、全く読んでない)
  - ・ 理解を深める参考となるか (非常に参考になる、参考になる、どちらでもない、あまりならない、全くならない)

レポートについて印象に残ったことがあればそれを記せ、また、レポート全般に関してなど意見があれば述べよ

添付資料F-2 : 「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」アンケート結果

設問	1-	1-	1-	1-	1-	2-	2-	2-	3-	3-	4-	4-	5-	5-	6-	6-
学生No.	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
1	3	4	5	5	5	3	3	2	4	1	4	4	4	4	3	4
2	4	4	5	4	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4
3	5	4	4	4	4	4	4	2	5	1	5	5	5	5	4	4
4	5	5	5	4	5	4	4	4	4	2	4	4	4	4	5	4
5	5	4	4	5	3	4	4	4	4	1	3	4	4	4	5	4
6	5	5	5	5	4	4	4	3	5	4	4	5	5	5	5	4
7	4	4	4	4	5	4	4	4	4	3	5	3	4	4	4	4
8	4	4	4	5	4	4	4	4	5	3	4	3	4	4	4	5
9	4	4	4	5	5	4	4	2	4	1	4	4	4	4	4	4
10	5	5	5	5	5	4	4	2	4	2	5	5	4	4	3	4
11	4	4	5	5	5	3	3	4	4	2	4	3	4	4	3	4
12	4	3	4	3	4	4	4	3	3	3	4	3	4	4	2	4
13	4	4	5	5	5	4	4	5	4	3	4	4	4	4	5	4
14	5	5	5	5	5	5	5	4	5	2	5	4	5	5	5	5
15	4	4	4	4	5	4	4	3	4	2	4	4	4	3	4	4
16	5	5	5	5	5	5	5	5	4	3	4	4	4	4	4	4
17	5	4	5	5	3	4	4	3	5	3	4	4	5	4	4	4
18	5	4	4	5	5	4	4	4	5	3	3	4	4	5	4	4
19	4	4	4	4	5	4	4	4	4	2	4	4	4	4	3	4
20	4	4	3	5	3	4	4	3	4	2	4	4	4	4	3	4
21	4	4	5	5	5	3	4	2	4	2	3	3	4	4	3	4
22	4	4	5	5	5	4	4	1	5	3	4	3	4	4	4	5
23	4	4	5	5	5	4	3	4	5	3	4	3	5	5	5	5
24	4	4	3	5	4	3	4	3	5	2	4	5	5	5	5	5
25	5	4	4	5	3	3	4	1	5	2	4	4	4	4	5	5
26	4	4	4	5	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4
27	4	4	4	5	5	5	5	5	4	3	4	4	5	5	5	5
28	4	4	4	4	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4
29	5	4	5	5	5	4	3	3	4	1	4	5	4	4	5	5
30	4	4	4	5	5	4	4	2	4	3	4	3	4	4	5	4
31	4	4	4	4	5	4	3	4	4	2	4	4	5	4	5	4
32	4	4	4	5	4	3	4	4	5	4	4	4	4	4	5	4
33	5	5	4	5	5	4	4	4	4	4	3	4	4	5	4	4
34	4	5	4	3	4	4	4	3	4	3	4	4	5	5	3	4
35	4	2	4	3	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	3	4
36	4	5	4	3	5	4	4	4	4	3	5	5	5	5	3	4
37	4	4	4	5	5	3	4	3	4	2	4	3	4	4	3	4
38	4	4	4	5	5	4	4	3	4	2	4	3	4	4	4	4
39	4	4	4	5	5	4	4	4	4	2	4	4	4	4	5	4
40	5	5	5	5	5	4	4	4	4	3	5	4	5	5	5	5
41	5	5	5	5	5	4	5	5	5	3	4	3	5	4	3	5
42	4	4	4	5	4	4	4	2	4	2	4	4	4	4	3	4
43	4	4	5	4	3	4	4	4	5	4	4	5	5	5	4	4
44	4	4	4	4	4	3	3	3	4	3	4	4	4	4	3	4
45	5	4	4	5	4	4	4	4	4	2	4	5	5	5	4	5
46	5	4	4	5	4	4	4	4	5	2	4	5	4	5	4	5
47	4	4	4	4	5	4	4	3	4	3	4	4	5	4	5	5
48	4	4	5	3	5	3	4	2	4	1	4	3	5	4	3	4
49	4	4	4	5	5	3	4	2	3	2	4	3	4	4	5	5
50	5	5	5	5	5	4	4	3	4	2	5	4	5	5	5	5
51	4	4	4	3	4	4	4	3	4	1	4	4	5	5	5	4
52	4	4	4	4	5	4	4	2	4	1	4	3	4	4	4	4
53	5	4	5	5	5	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	5
54	3	4	4	3	4	4	4	4	4	2	5	5	4	4	5	4
55	4	4	5	5	5	4	4	5	4	2	3	3	4	4	3	4
56	5	5	5	4	4	4	4	5	4	3	4	5	5	4	4	5
57	4	3	4	3	4	3	4	4	3	2	4	4	4	4	3	4
58	4	3	5	4	5	3	3	3	4	2	4	3	4	5	4	4
59	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	4	3	4	4	3	4
60	4	4	4	4	4	3	4	4	4	2	4	4	4	4	4	4
61	4	4	4	5	4	4	4	4	4	1	4	4	5	5	3	4
62	5	4	4	4	4	4	5	5	4	3	4	4	4	4	4	4
63	4	4	4	4	5	4	4	2	4	3	4	5	4	4	4	4
64	3	3	3	5	5	3	3	3	3	3			3	3	3	3
65	4	4	3	5	5	4	4	4		1	3	3	4	4	4	4
66	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3
67	5	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4
68	4	4	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	5	5	2	3
評価「5」	21	12	24	40	41	3	5	7	14	0	9	13	21	19	20	16
評価「4」	43	50	39	19	21	50	54	31	48	5	50	33	45	46	24	46
評価「3」	4	5	5	9	6	15	9	17	5	28	7	21	2	2	22	3
評価「2」	0	1	0	0	0	0	0	0	11	0	25	1	0	0	0	2
評価「1」	0	0	0	0	0	0	0	2	0	10	0	0	0	0	0	0
未記入	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	3
平均順位	4.3	4.1	4.3	4.5	4.5	3.8	3.9	3.4	4.1	2.4	4.0	3.9	4.3	4.3	3.9	4.2



添付資料 G : 「テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論」 アンケート結果  
 (他者のレポート例の公開に対するコメント一覧)

No.	他者のレポート例の公開について・その他雑感
1	他の人の考えが分かり、良かった
2	ラインを越えるのは大変だが、工夫して書くことができた
3	他人の意見を知ることができ、理解が深まった
4	他人の意見で視野が広がった
5	図が上手だなと思った
6	書いていることは人により色々で、様々な考えを取り入れるきっかけになり良かった。自分の考えが浅いと思うことが多々あった。
7	絵や図を書いてもよいということで表現のツールが広がって良かった
8	他人のレポートを読むと「ああ、こういう考えもあるね！」と勉強になった。自分の筆跡がすごく特徴的だなと思ったりもした。
9	線を越えなくてはならないというノルマを課せられて、最初は本当に書けるのだろうかと思ったが、書いていくうちに自分が思っていることがすらすらと書けることがあった。
10	自分の持ち物を例に挙げて考えていた人がいて、良い例と悪い例を表していたのが読みやすく印象的であった。また、絵を活用するだけでなく絵の横に機能や場面についての詳細な説明がついているものもあり、これらのレポートはどれも印象に残った。
11	障がいのある人に対する理解を更に深めるために、十分に役立ったと思う
12	レポートをやることで、テクニカルエイドのことを深く学ぶことができた。
13	絵を描くことが苦手で、結局文字だけのレポートになってしまったような気がする。
14	レポートに図表やイラストを使用できるというのは、自分の思いを表現するのに非常に役立った。また、他者のレポート例を見ることで、自分とは違った考え方や感じ方を知ることができた。
15	自分では考えもしなかった意見を知ることができ、再び考えさせることもあったので良かった。
16	他人の意見を聞く(見る)のはとてもいいことだと思う。この講義では毎回他人の意見を聞いてよかった。
17	他人のレポートを読むことで、自分では全く気付かなかった点や違う着眼点などを知れて、その意見に納得すると同時に感心できた。他人に感心することで、自分も様々な視点から物事を考えようとする向上心が芽生えたので、とてもよかったと思う。
18	他人のレポートは、書いている内容がどれも考えられていると感じた。ただ羅列するだけでなく、一つ一つ自分の意見が盛り込まれており、賛否の意見の両方を参考にしているため、わかり易かった。
19	他人のレポートを見ることで、自分の思ったことない考えや発想が書いてあって、自分の感じ方との違いを知ることができ、非常に良かった。
20	自分のレポートがコピーされていると、自分の気持ちや理解が共感されるだろうかドキドキした。先生のコメントで理解や考えが深まることも多かった。
21	先生が一つ一つ丁寧にレポートに応えてくれていたことが印象に残った。自分のレポートが載った時は、もっとキレイに文字を書かなければという思いになった。
22	他人のレポートを読むことで、自分と違うところに注目している人などいても、次は自分もそういうところに注目してみようと思うことができた。
23	一つ一つのレポートに返事をもらうことは大変だと思うが、書いた側はやる気につながるし、更なる理解も深めることができよと思う。他者のレポートコピーも自分が考え付かなかった視点で書かれてあって、多くの発見があった。
24	レポートでは難しい設問がいくつかあったが、ほかの人が書いたレポートを見ることができ、たくさんの意見や考え方を吸収することができた。
25	他人のレポートを読むことで、自分にはない考えをいろいろ知ることができたので、とても参考になったし、楽しく読むことができた。
26	具体的な内容まで書かれてあったり、字がきれいで見易いものもあった。
27	レポートに図が利用したものは文字だけのものより分かり易かった。書きたいことがありすぎたのをうまくまとめることが難しかったが、このレポートを毎回出すことで、少しはまとめる力がついたと思う。
28	毎回レポートを書いたことで、その日の考えを改めて整理することができた。
29	他人のレポートを読むことはとても自分のためになると思った。自分では考えていなかったことはとても参考になったし、自分と同じ考えの人がいたら共感することができた。
30	決められた線を越えるまで書くのが最初は大変だったが、だんだんと慣れてきて表現力がついたと思う
31	レポートコピーを見て、量だけでなく文字数は少なくとも内容で載っているものもあったので、あんなにたくさんのレポートが出ているにもかかわらず、先生は読んでくれているんだと嬉しく思った
32	2回目のレポートに「自宅にあるバリアフリー」とあったが、家が古めでバリアフリーとなるものがあまり無かったので書きづらかった。せめて「身の周り」にしてほしかった
33	文を書くのが得意ではないので、他者のレポートを見てすごいなとおもってびっくりだった。また、自分とは違うレポートを見るのは新鮮だった。いつも嫌だと思っていたものの、成長につながる時間になっていたのだなと今は感じている。
34	他人のレポートを読んで、こんな意見もあるんだと感心した。自分の知識や考えを深めるために、この他者のコピーはとても役に立った。
36	他者のレポートを読むと、自分と違った印象を受けている人が多いと感じることがあった。
37	線を越すまでレポートを書くのが大変だった。
38	図などをうまく利用していたレポートがすごいと思った。
39	他人のレポートはとても参考になった。
40	他の人のレポートを見て、自分とは違う意見を持っていたり、考えを持っているのを見るのが楽しかった。
41	文字で表現しにくいことは絵を使えば、文字を使うより楽に伝えることができることが分かった。他の人のレポートを読むことで、自分にはない考えを知ることができたり、自分があまりスムーズに書けなかったレポートの時などは、すごく参考になった。
42	たくさんのイラストを書いて説明できる人はすごいと思った。
43	絵や図を書いてもよいということで表現のツールが広がって良かった入れてレポートを書いている方はとても読みやすく感じた。他の人の意見は、自分とまったく違う意見もあり、とても参考になった。
44	最初の頃のこういう乗り物があればいいというレポートで、文字や言葉で表すのが難しかったが、絵などで表現できたことが良かったと思う。レポートを書くことでこの講義の内容を振り返ることができた。
45	この講義で毎回レポートを書いてきたが、書くことによって自分の思いや考えを明確にすることができて、しかもそれについて教官からのコメントをもらえるので、とてもいい意見交換ができたと思う。また、他の人のレポートを読むことにより、自分が持っていなかった考えも見つけることができたので良かった。
46	他の人の考えが良く分かった
47	自分が思ったり考えたりしたこと以外に、自分が全く気付かなかった視点からの意見が聞けて、新鮮だった。興味を持って読むことができた。
48	自分とは違う他の人の意見を読んで、自分が気付かなかった点に気付くことがあった。
49	自分が全く思いつかなかった考えが書いてあって面白かったし、勉強になった。
50	はじめはレポートを埋めることに対して、大変かな?とも思ったけど、書いているうちに、たくさん自分の意見を書くことができるようになった。
51	レポートを毎回最後まで書くのに時間がかなり苦手だった。他の人のレポートを見て、自分と違う考え方やレポートの書き方がとても参考になったし、役立った。
63	他の人のレポートを読んで、自分と似た意見やまったく考えたことがない意見があって、すごく勉強になった。

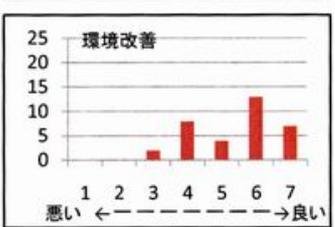
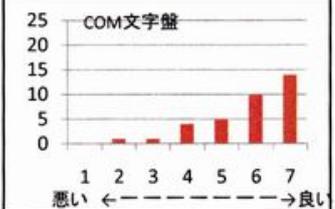
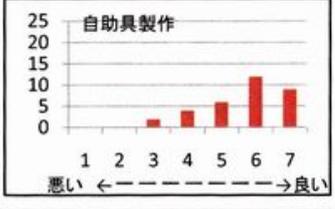
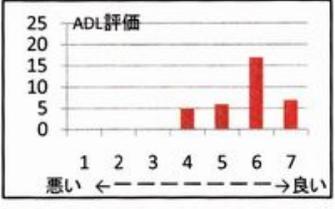
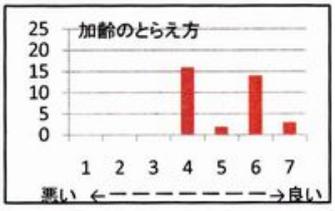
以下の項目について、7段階で評価し、自分が得たもの、改善点、感想などを記述下さい。

1. 加齢のとらえ方関連講義  
(7段階評価: 7:とても良い, 6:良い, 5:少し良い, 4:普通, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い)
  
2. ADL評価関連講義およびのスクリーニングテスト  
(7段階評価: 7:とても良い, 6:良い, 5:少し良い, 4:普通, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い)
  
3. 自助具関連講義および自助具製作演習  
(7段階評価: 7:とても良い, 6:良い, 5:少し良い, 4:普通, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い)
  
4. コミュニケーション関連講義および文字盤操作演習  
(7段階評価: 7:とても良い, 6:良い, 5:少し良い, 4:普通, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い)
  
5. 高齢者特性と環境改善  
(7段階評価: 7:とても良い, 6:良い, 5:少し良い, 4:普通, 3:やや悪い, 2:悪い, 1:とても悪い)
  
6. 全体的な意見・感想

添付資料H-2 : 伊万里看護学校看護科「老年看護学概論」アンケート集計結果

No.	加齢の とらえ方	ADL評価	自助具 製作演習	COM 文字盤	環境改善	全体 評価
	(7:とても良い 6:良い 5:少し良い 4:普通 3:少し悪い 2:悪い 1:とても悪い)					
1	6	4	3	7	6	
2	6	7	7	5	7	
3	4	7	6	5		
4	4	6	7	5	5	
5	6	6	7	7	6	
6	5	6	6	7	5	
7	6	6	6	6	6	
8	6	5	6	6	7	
9	4	6		6	4	
10	6	6	7	7	6	
11	4	6	6	4	4	
12	7	7	7	7	7	
13	4	4	6	4	4	
14	6	7	6	7	7	
15	4	4	5	5	5	
16	6	6	7	7	6	
17	6	6	6	7	6	
18	7	7	7	7	7	
19	4	5	3	6	4	
20	4	6	5	7	6	
21	6	6	4	6	7	
22	4	5	5	6	3	
23	4	5	5	4	5	
24	6	7	6	7	6	
25	4	5	6	6	3	
26	6	6		6	6	
27	7	7	7	7	7	
28	4	6	5	5	4	
29	4	6	5	7	6	
30	4	4	4	4	4	
31	4	4	4	3	4	
32	6	6	6	6	6	
33	4	6	4	2	4	
34	6	6	7	7	6	
35	5	5	6	6	6	
評価 人数	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	1	0
	3	0	0	2	1	2
	4	16	5	4	4	8
	5	2	6	6	5	4
	6	14	17	12	10	13
	7	3	7	9	14	7
未記入	0	0	2	0	1	
評価平均	5.11	5.74	5.67	5.83	5.44	
人気順	5	2	3	1	4	

番号は個人を特定するものではありません(順不)



加齢 捉方	基本的な捉え方ということで、教科書に従った座学での進捗としたので、「普通」の評価が多かったのかと考えています。ただ、高齢者理解の上で、過去の大きな部分として戦争体験がある事は重要な点なので、そこを補足しています。
ADL	ADL評価の必要性は全員理解されており、記入の演習をすることでイメージが湧き、意識が高まった方も多いと思います。職場上司や患者さんに対する説明等がストレスに感じる方もいるようですが、このような作業を行う場合の事前説明は、互いの考えを共有しあう場としても重要です。使用機器具などの記述は、後日見返す際に理解を補い有用です。二番人気でした。
自助 具	去年の製作課題は『伝声管』で、作るのがとても簡単だったので、今年はやや複雑な課題『ソックスエイド』にしました。しかしながら、材料費を安く仕上げようとペットボトルを利用した部分に課題が残りました。ハサミの使い方が悪いとゲが出やすく、一応紙ヤスリは準備していたのですが、作業のドタバタでその存在を忘れていました。
文字 盤	一番人気で学生諸君からは、「とても良い」の評価が14名と多かったのですが、「悪いや」「やや悪い」の評価もありました。操作法の説明が短く判りにくかったのかもしれませんが、コミュニケーションの180分の講義は、伊万里看護の他、佐賀大看護科、県総合看護保健師科、柳川リハST科で、同じ内容を実施していますが、各学校でも評価されています。他校の学生は患者さんに接する機会を実習での短い経験ですが、伊万里では病院等に勤務されている方が殆どなので、患者さんのイメージが具体的に浮かび易く、その点は理解しやすかったのではないかと思います。また、文字盤を使わず口の形を利用したコミュニケーション演習は、伊万里だけでやったものです。
環境 改善	日頃、住空間と道具の関係を考える機会は少ないと思います、書籍資料を読んで理解を深めてもらう内容としました。資料を読む中で、解説と患者さんのイメージが重なるような場面が出れば一層理解が深まると思います。読んでいただく書籍の選択肢を増やせるように、次回は参考図書をもう少し増やします。
全体 評価	全体評価の部分に、7段階評価の行が欠けていました。評価がとれず深く反省。